

科目名	応用看護科学 Applied Nursing Science
授業形態	講義(20%)と演習(80%)を併用する
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春AB 金曜1～3時限
単位数	3単位
担当教員名	竹熊カツマタ麻子 Asako T. Katsumata 水野道代 Michiyo Mizuno 杉本敬子 Keiko Sugimoto 福澤利江子 Rieko Fukuzawa
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	1 Nuring Knowledge(看護知識)とは何かを説明できる。 2 理論背景にある哲学について説明できる。 3 看護理論の開発と検証方法について説明できる。 4 看護理論の分析と評価方法について説明できる。 5 概念開発と分析の方法を比較検討し、理論および理論開発にどのように貢献するかを説明できる。 6 Evidence-Based Practiceのための研究への理論の活用について説明できる。 7 Conceptual-Theoretical-Empirical Structuresによる論文のクリティークができる。 8 研究からの理論構築の方法について説明できる。 9 課題やディスカッション、ディベートを通して、今後の看護科学の発展への課題について科学的に探究できる。
他の授業科目との関連	
履修条件	博士課程1年生
授業概要	看護理論の背景にある哲学を踏まえ、看護理論の開発と検証、分析と評価の方法、また概念開発と分析の方法、さらに研究への理論の活用と研究からの理論構築の方法について、課題やディスカッションを通して理解を深め説明でき、今後の看護科学の発展への課題について科学的に探究できる。
キーワード	哲学(philosophy)、理論(theory)、看護科学(nursing science)
授業計画	1(4/12) Nursing Knowledge(看護知識)とは I(Katsumata) 2(4/12) Nursing Knowledge(看護知識)とは II(Katsumata) 3(4/12) Nursing Knowledge(看護知識)とは III(Katsumata) 4(4/19) 概念開発と分析 方法の比較 I(福澤) 5(4/19) 概念開発と分析 方法の比較 II(福澤) 6(4/19) 概念開発と分析 方法の比較 III(福澤) 7(4/26) 看護理論の分析と評価 I(杉本) 8(4/26) 看護理論の分析と評価 II(杉本) 9(4/26) 看護理論の分析と評価 III(杉本) 10(5/10)概念開発と分析 理論および理論開発への貢献 I(福澤) 11(5/10)概念開発と分析 理論および理論開発への貢献 II(福澤) 12(5/10)概念開発と分析 理論および理論開発への貢献 III(福澤) 13(5/17)哲学 経験主義と合理主義-その起源と違い : empiricism & rationalism- its origin and the difference I(水野) 14(5/17)哲学 経験主義と合理主義-その起源と違い : empiricism & rationalism- its origin and the difference II(水野) 15(5/17)哲学 経験主義と合理主義-その起源と違い : empiricism & rationalism- its origin and the difference III(水野) 16(5/24)哲学 科学的探究と科学的知識-その方法と目的 : scientific inquiry & scientific knowledge- its methods and the endpoints I(水野) 17(5/24)哲学 科学的探究と科学的知識-その方法と目的 : scientific inquiry & scientific knowledge- its methods and the endpoints II(水野) 18(5/24)哲学 科学的探究と科学的知識-その方法と目的 : scientific inquiry & scientific knowledge- its methods and the endpoints III(水野)

	<p>19(5/31)看護理論の開発と検証(Katsumata) 20(5/31)看護理論の開発と検証 II (Katsumata) 21(5/31)課題レポートのに関する発表とディスカッション(Katsumata) 22(6/7) 実践への理論の活用(協定校よりゲスト講義)(Katsumata) 23(6/7)実践への理論の活用(協定校よりゲスト講義)(Katsumata) 24(6/7)実践への理論の活用(協定校よりゲスト講義)(Katsumata) 25(6/14)研究への理論の活用 Conceptual-Theoretical-Empirical Structuresによるクリティーク I (杉本) 26(6/14)研究への理論の活用 Conceptual-Theoretical-Empirical Structuresによるクリティーク II (杉本) 27(6/14)研究への理論の活用 ディスカッション(杉本) 28(6/21)研究からの理論構築 I (Katsumata) 29(6/21)研究からの理論構築 II (Katsumata) 30(6/21)課題レポートのに関する発表とディスカッション & まとめ(Katsumata)</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	
<p>成績評価方法</p>	<p>1.授業への参加度・課題達成状況:30点 2.課題レポート:70点 <課題レポート> 学生の研究テーマに関連した理論のクリティーク(分析と評価)、あるいは概念分析 5月31日(金):1st draft締め切り 各学生のレポートの構想(目的・方法まで概略)をA4 1ページ程度にまとめてManaba上で提出(5/31 8:00締め切り) 授業でプレゼンテーション&ディスカッション 6月7日(金): ゲスト講義のレポート Manaba上で提出(6/14 8:00締め切り) 6月14日(金):2nd draft締め切り その時点までの下書き論文をManaba上で提出(6/14 8:00締め切り) 授業でプレゼンテーション&ディスカッション <input type="checkbox"/>この段階の下書き論文をピアレビューおよび教員からの採点の対象とする(70点中20点) 6月21日(金):Peer-review締め切り ピアレビューのガイドライン(別途配布)に従い、割り当てられた学生のレポート(2nd draft)について、査読を行い、Manaba上で提出(6/21 8:00締め切り) <input type="checkbox"/>教員より、各学生本人へピアレビュー結果を配布する 7月17日(水):Final manuscript締め切り ピアレビューなどのフィードバックをもとに完成した最終論文原稿をManaba上で提出(7/17 23:59締め切り) <input type="checkbox"/>この最終段階の論文を教員からの採点の対象とする(70点中50点) 評価の視点は以下のとおりである。 D 上記2. が60点未満であるか、2. について、行動目標の1~8を教員の指導のもとでも達成できないレベル。 C 上記2. を60点以上(42%以上)獲得し、2. について、行動目標の1~8を教員の指導のもとで概ね達成できるレベル(18%以上)。 B 上記2. を65点以上(45%以上)獲得し、2. について、行動目標の1~8を、部分的に教員の指導のもとで概ね達成できるレベル(25%以上)。 A 上記2. を70点以上(51%以上)獲得し、2. について、行動目標の1~8を、概ね自身で達成できるレベル(29%以上)。 A+ 上記2. を85点以上(61%以上)獲得し、2. について、行動目標の1~8を、自身で達成できるレベル(29%以上)。</p>

<p>教材・参考文献・配布資料等</p>	<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Fawcett, J.(1993)/太田喜久子・筒井真優美監訳(2008). フォーセット看護理論の分析と評価 新訂版. 東京:医学書院. 2. Chinn, P. L., & Kramer, M. K.(2004)/川原由佳里監訳(2007). 看護学の総合的な知の構築に向けて. 東京:エルゼビア・ジャパン. 3. Walker, L. O. & Avant, K, C. (2005)/ 中木高夫, 川崎修一訳(2008). 看護における理論構築の方法. 東京:医学書院 4. American Psychological Association. (2010)/前田樹海、江藤裕之、田中建彦訳(2011). APA論文作成マニュアル第2版. 東京:医学書院 5. Fawcett, J. & Garity, J(2009). Evaluating Research for Evidence-Based Nursing Practice. Philadelphia, F. A. Davis Company <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Carper, B. A. (1978). Fundamental patterns of knowing in nursing. In Cody, M., Philosophical Theoretical Perspectives(pp. 23-33). Burlington, MA:Jones & Bartlet learning 2. Chinn, P. L., & Kramer, M. K. (2011). Integrated theory and knowledge development in nursing (8th ed.). St. Louis, MO: Mosby Elsevier. 3. Rogers, B.L., & Knafl, K.A.(2000). Concept Development in Nursing Foundations, Techniques, and Applications(2nd, ed.). W.B.Saunders Company.
<p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p>	<p>指定した文献を事前に読んでおくこと 授業は、基本的に毎回、事前に課題を提示し、その課題に基づくディスカッション形式とする。</p> <p>評価基準 到達目標までの通過点を段階的に示す(従来のSBOに相当)ことで、評価の視点を明確にする。 また各段階に応じた評価の判断基準を明確にする。 (参考)SBOの記述によく使われる動詞 認知領域:列挙する, 具体的に述べる, 説明する, 判断する, 評価する, 予測する, 立案する 情意領域: 尋ねる, 討議する, 表現する, 参加する, (態度を)示す 精神運動領域:工夫する, 実施する, 作成する, 調べる, 準備する 例)評価の視点は以下のとおりである。 1. 適切な問題を設定できる。 2. 設定した問題の背景を説明できる。 3. 設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる。 4. その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げるができる。 5. 既存の意見をふまえて、自らの考えを述べるができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～5を自身で達成できる。 A 上記1～5をほぼ自身で達成できる。 B 上記1～5を教員の指導を受けながら達成できる。</p>